

目次

Section.1 価値創造プロセス

- 03 東武グループ経営理念
- 04 東武グループ経営方針
- 05 At a Glance
- 07 社長メッセージ
- 13 価値創造の歩み
- 15 価値創造プロセス
- 17 価値創造プロセスにおいて活用する資本
- 19 東京スカイツリータウン®の挑戦と協創

Section.2 価値創造戦略

- 23 長期経営ビジョン
- 31 財務担当役員メッセージ
- 37 事業一覧
- 39 事業概況／運輸事業
- 41 事業概況／レジャー事業
- 43 事業概況／不動産事業
- 45 事業概況／流通事業
- 47 事業概況／その他事業

Section.3 価値創造の基盤

- 49 サステナビリティ経営
- 51 特定したマテリアリティ
- 53 人材戦略、人事担当役員メッセージ
- 59 人的資本経営を支える人材戦略 ― 人事部の視点から
- 61 人権の尊重
- 63 安全・安心
- 67 環境負荷低減に向けた取組み
- 71 ステークホルダーへの取組み
- 73 コーポレート・ガバナンス
- 79 役員一覧
- 81 社外取締役と社長による対談
- 84 取締役会議長メッセージ
- 85 コンプライアンス
- 87 リスク管理

Section.4 企業情報

- 89 財務・非財務データ
- 93 グループ会社一覧
- 94 会社概要・株式の状況



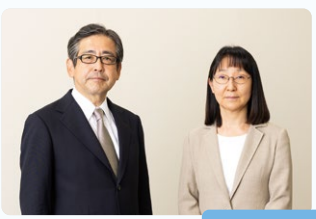
» P.19-22へ

長期経営ビジョンに掲げる「挑戦」と「協創」のストーリー

「挑戦」と「協創」によってどのような価値創造が行われているのか、東京スカイツリータウンをテーマにした座談会を通じて、そこで働く社員の想いや具体的な取組みを紐解きます。

社外取締役と社長による対談

コーポレート・ガバナンスの現状や取締役会における議論の振り返り、取締役会の実効性、ガバナンスや経営全般に対する課題とそれに対する提言など、社外取締役と社長による対談を通じてお伝えします。



» P.81-84へ

事業概況の開示の拡充

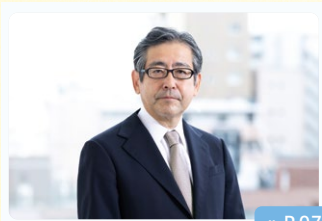
東武グループの各セグメントにおける事業概況や取組みと成果を紹介しています。あわせて、各セグメントにおいて価値創造に携わる社員の想いや現場での「挑戦」と「協創」の取組みをお伝えします。

» P.39-48へ

主要プロジェクト責任者からのメッセージ

長期経営ビジョン実現に向けた取組みにおいて、各主要プロジェクトの責任者からどのような想いで事業を推進し、「挑戦」と「協創」を実現していくのか、メッセージ形式でお伝えします。

» P.26-30へ



» P.07-12へ

社長メッセージ

企業価値向上と長期経営ビジョン実現への道筋、長期経営ビジョンで目指している将来像について、その想いを社長自らの言葉で語っています。

統合報告書
2026のポイント



» P.59-60へ

「挑戦」と「協創」を実現する人材戦略

人事制度改革をテーマにした社員鼎談で、人材戦略を経営戦略の実現につなげるべく、どのような施策を行っているのか、変革に向かう東武グループの姿を掘り下げます。

編集方針

本報告書の作成にあたっては、東武グループのこれまでの歩み・活動内容から、長期的な価値創造に向けた戦略や施策、財務・非財務情報まで、網羅的にわかりやすく報告することを心がけました。編集にあたっては、IFRS財団が提唱する「国際統合報告フレームワーク」や「GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード（GRIスタンダード）」、「価値創造のための統合的開示・対話ガイダンス（価値創造ガイダンス）」などを参考にしています。本報告書を通じて、株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様に、東武グループについて深くご理解いただければ幸いです。

報告対象範囲

東武鉄道株式会社（当社）及びグループ会社

報告対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日
ただし、一部については対象期間前後の情報も含んでいます。

情報開示

東武鉄道公式ホームページより「IR情報」をご参照ください。
<https://www.tobu.co.jp/ir/>

参照ガイドラインなど

- ・IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
- ・GRIサステナビリティ・レポーティング・スタンダード（GRIスタンダード）
- ・価値創造のための統合的開示・対話ガイダンス（価値創造ガイダンス）

将来見通しに関する注意事項

本報告書に記載されている業績予測などの将来に関する記述は、東武鉄道及びグループ会社の事業に関連する業界動向や、国内及び諸外国の経済状況、その他業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報に基づいた予想を前提としています。したがって、実際の業績は経営環境などの変化に伴い、これら見通しとは異なる場合があります。

刊行物の位置づけ

◎ ホームページ上では各刊行物のページにアクセスできます。

